

やまもり通信6 vol.58

半袖がちょうどいい季節になってきました。
いまできることを全力で楽しみましょう！



【加子母の風景】お寺へ上がって行く道すがら。今年も変わらない田植えの風景。

こんにちは！彩都のベーカリー「シャンボール」です。
今年新型コロナウイルスの影響で中学高校の新入生の明るい笑い声も聞けず例年になくすこし寂しい春を迎えましたが、逆に彩都にいらっしゃる方も多くいてお陰さまでお店にたくさん来ていただきました。
これもこの地で14年の間、一貫してなるべく添加物を使わず美味しく体に良いものを提供したいという信念で作りに続けてきたことが地域の皆さまに支持されたものと喜んでます。これからもどうぞよろしくお願いたします。

さて今回ご紹介するのは当店自慢のカレーパンです。天然酵母パンを生地につかい3種類のカレーをブレンドした深みのある味わいとなっています。ぜひ一度ご賞味ください。



シャンボール 木次(こつぎ)洋順&奈奈
茨木市彩都あさぎ3丁目2-29 TEL:072-641-0330
営業時間:7:00~20:00(売り切れ次第閉店)
定休日:毎週火曜日

岐阜県からのお知らせ
「ストップ 新型コロナ!がんばろう岐阜」運動
ふるさと納税で医療関係者を応援しよう!

岐阜県では、「ストップ 新型コロナ!がんばろう岐阜」運動を実施しています。その一環として、新型コロナウイルス対策に従事する医療関係者を支援するため、ふるさと納税の募集を開始いたしました。
県の医療を守るため、ひいては一日も早く平常の県民生活を取り戻すため、何卒ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

【寄付の方法】ポータルサイト「ふるさとチョイス」によるご寄附

1. クラウドファンディング

※返礼品をお選びいただくことはできません。

2. 通常のふるさと納税

寄附者の方は、メニュー（全部で①～⑰）から

①「ストップ新型コロナ!がんばろう岐阜」
～地域のためにがんばる医療関係者を応援～
を選択してください。



ふるさとチョイス 岐阜県ページ
<https://www.furusato-tax.jp/city/product/21000>

【お問い合わせ先/ご提出先】
〒500-8570
岐阜市数田南 2-1-1 岐阜県地域振興課地域プロモーション係
TEL: 058-272-8197 FAX: 058-278-3530
E-メール: c11143@pref.gifu.lg.jp

 
CKB



OKB相続サポート
「お客さまの様々なニーズにお応えしたい」。そんなOKBの想いから、OKB相続サポートとして「遺言代用信託」「遺言信託」「遺産整理」を取り扱っています。遺言書の作成、保管・管理から相続発生時までをトータルにお手伝いします。あなたの大切な想い、OKBで相談してみませんか？

OKB 大垣共立銀行

延期になってしまったイベント vol.2

新型コロナウイルスの被害拡大による影響にともない、彩都やまもりにて開催予定だったイベントが続々と中止になってしまいました。そこで、今月も先月に引き続き、「ひとこと日記」で開催予定だったイベント第2弾を紹介していきますよ～!

vol.2 『大工さんとかななげずり体験&ひのきのこいのぼりづくり』
大工さんと一緒にかんなげずり体験をして、できたかな花（かななくず）を丸めてかわいいこいのぼりをつくります。うるこの部分の飾り付けをしたり、顔や模様を書いてあげたりと自由につくれるのでオリジナルのミニチュアこいのぼりができます。木の枝を縦にしてこいのぼりを固定して飾るのもかわいいですし、木の枝にひもでくっつけて外にぶらさげてあげることもできます。青空の下で風に吹かれているこいのぼりたちのすがたは何ともいえないかわいさです。さらに大工さんと一緒にかんな削りもできるので、ひのきや杉といった天然木に触れながら、いい匂いを直に感じてもらえると思います。小さなおこさまから大人の方まで楽しめますし、こどもの日の飾り付けにぴったりなので、ぜひ来年まで楽しみにしててくださいね～!



こちら 彩都やまもりです

【住所】箕面市彩都栗生南1-17-26

<今月のギャラリー案内> 彩輝館ギャラリー

「**岐阜の中山道17宿を巡る旅**」を案内しています。

【期間】～7月中旬ごろまで

追って彩都やまもりHPやfacebookでお知らせします。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため4月初旬から臨時閉館していたことを踏まえ、引き続き「岐阜の中山道17宿を巡る旅」をご案内します。

《彩都やまもり今月のイベント》

彩都やまもりでのイベントは当面自粛しています。
あとしばらくお待ちください。

《ギャラリーご利用のお客様へ》

新型コロナウイルス感染防止のため、以下にご協力をお願いいたします。

◆マスクのご持参・ご着用をお願いいたします。

◆ギャラリーに入られる際は入口に設置のアルコール消毒にご協力をお願いいたします。

◆ギャラリー内では人との社会的距離をお取りくださいますようお願いいたします。

安心してギャラリーを楽しんでいただけるよう、おたがい譲り合つてのご利用にご協力をお願いいたします。



事務局からのお知らせとお願い

《お知らせ》

今回の新型コロナウイルスによる被害拡大防止のため、参加者の健康と安全を第一に考え、予定しております以下の行事を中止及び延期することといたしました。

開催を楽しみに参加を予定されていた皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解・ご了承下さいますようお願いいたします。

●7月5日(日)「第3回箕面フォトロゲイニング」は中止いたします。

●7月10日(金)「大阪岐阜県人会・関西岐阜県人連合会合同総会並びに記念式典」について、合同総会は今後の情勢を見極め6月上旬に開催の有無を決定します。なお、記念式典は来年に延期いたします。

●11月7日(土)～8日(日)「2020 岐阜ふるさと祭り」は今後の情勢を見極めながら、7月末ごろに開催の有無を決定させていただきます。

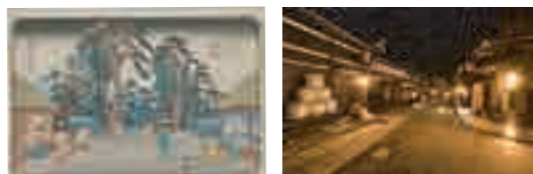
《岐阜県「ふるさと納税」についてお願い》

自治体が「ふるさと納税」を活用して新型コロナウイルスで被害、打撃を受けた民間業者や医療機関等の応援、支援に乗り出しています。

岐阜県でも「ふるさと納税」により医療支援等に取り組んでおり、連合会もこの取り組みを応援します。是非、この機会に「ふるさと納税」をお願いします。詳細は4P「岐阜だより」に掲載しています。

” 離れていても、ふるさと納税で、ふるさとにエールを送ろう”

関西岐阜県人連合会 会長代行 徳田 昭憲



【お問合せ】彩都やまもり(TEL:072-739-6046)

皇女和宮

今回、中山道にまつわる話として朝廷から14代將軍徳川家茂に嫁いだ「皇女和宮」について少し触れたいと思います。

仁孝天皇の第8皇女として生まれた和宮(和宮親子内親王)は朝廷と幕府との公武合体策のため16歳の時、14代將軍徳川家茂に嫁ぐことになります。その際江戸までの道として使用されたのが中山道で、和宮のお供や警護を含め行列は50kmにも及び、沿道で行列をすべて見送るには丸4日もかかる大行列だったそうです。

この大行列を受け入れる宿場の準備も大変だったのは言うまでもなく、ぎふ17宿にも様々な逸話が残されています。

まず、赤坂宿では街道沿いからの見栄えをよくするために表側だけ2階建てにした「お嫁入普請」と呼ばれる家の建築や古家の建替えが行われ、河渡宿では和宮一行到着の1週間前から井戸の使用を禁止したり、河渡川(長良川)を渡る際は舟に「御駕籠台」を据えて駕籠のまま載せて川を渡ったり。さらに太田宿では人7856人、馬280頭、布団7440枚に枕1380個、飯椀8060個、汁椀5210個、お皿2110枚、お膳1040個など準備した食器や寝具の半端ない数の記録が残されています。

幕末のロイヤルウェディング、和宮の嫁入りには中山道を経由して25日間という日数もさることながら、推定152億円という膨大な費用が掛かったようです。

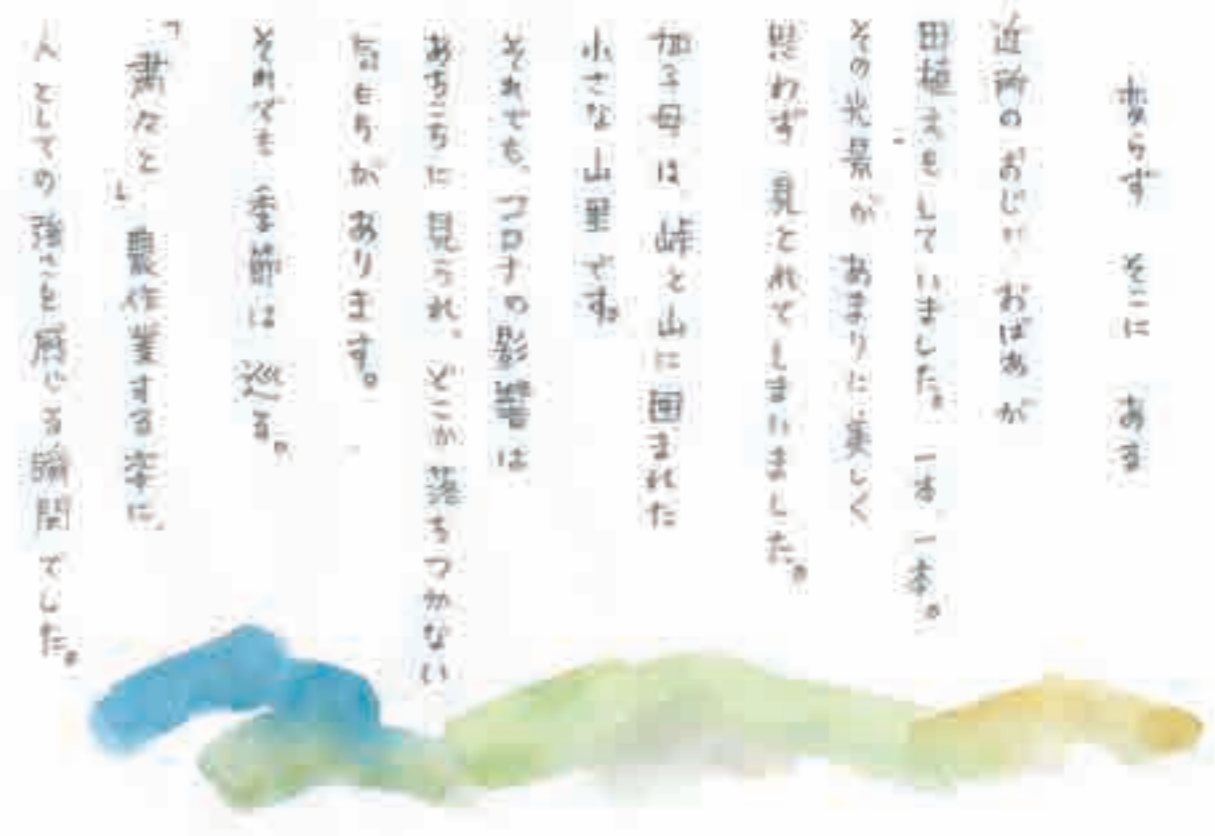
現在でも中山道の様々な宿場で和宮行列を再現したお祭りやイベントが催されていて、当時の料理を食べることもできます。

ちなみに和宮は明治天皇の叔母さんにあたります。歴史に思いを馳せながら中山道を旅する時、豆知識として知っておくと少し違った目線で楽しめるかもしれません。



中津川市「三宿街道祭り：皇女和宮降嫁行列」の様子

本間希代子 絵描き・イラストレーター 名古屋生まれ、加子母に移住して23年目。古楽器奏者の夫と娘と日々バタバタと加子母ライフを楽しんでいます。アトリエ玉手箱 <http://fabkoin.jp>



加子母の人 歴史の道⑥ 第52回 中切村役場のあるところ

かつての加子母村役場、現在の加子母総合事務所の敷地には波乱に富んだ歴史があるようです。大正以降の加子母の産業歴史をなぞるようなその変化。「歴史の道」を参考に紹介します。

●初めは製糸工場
広い農地だったこの土地に、大正8年、製糸工場が建ちました。加子母は昔から養蚕が盛んですが、繭価は商人の手に握られ、村の人が得をすることが少なかったそうです。そこで、村内の養蚕家によって「無限責任加子母中央製糸販売組合」が設立され、釜数44口の工場と付属建物が出来上がりました。製品は直接、横浜の生糸市場へ出して声価をあげると共に、村内の婦人達にも農閑期に現金収入を得る道が開かれました。昭和16年、恵那繭販売農業協同組合へ合併し、工場は閉鎖されました。

●戦後は、寒天

戦後、この工場を利用して寒天製造を始めた人がありました。加子母の冬の寒さを利用したのですが、資本の脆弱と価格の不安定によって数年で閉業になったそうです。
この時の様子を「聞き書き 加子母人2」に収録したので、紹介します。
「寒天草を馬車で持ってくる。それを朝3時に起きて、まず直径2メートルぐらいの大鍋でグラグラ煮るわけよ。寒天草が溶けてドロドロの餡みたいなやつを大きい柄杓で箱へ汲み出すわけよ。1メートル四

方の大きい箱を肩に担いで田んぼ2つばかり走ったわ。寒いでドロドロもすぐ冷たくなって固まるわ。それを切つて型に入れて突く。その上に氷を鎌で削つてかけると寒天がすぐ凍る。暗いうちから仕事して朝日が出ると寒天がピキヤッと光って綺麗なもんやったわ。」



青空の加子母総合事務所

●トラックから役場へ

寒天の次は、昭和32年、加子母運輸株式会社設立、トラック車庫と事務所をおき、華々しく流通業界へデビューしたそうです。
昭和40年代、旧村役場の改築に伴い、村の中央に近いこの地に周囲の農地を加えて庁舎を建築することになりました。加子母運輸は万賀地区へ移転。昭和47年に、現在の庁舎が竣工し、中津川市に合併以後は、加子母市総合事務所として現在も使われています。

【文責 本間】

